

## 会 議 録 (概要)

会議の名称	平成 30 年度 第 1 回佐渡市図書館協議会
開催日時	平成 30 年 5 月 24 日 (木) 13 時 30 分開会 16 時閉会
場所	佐渡市立中央図書館 2 階講座室
議題	(1)平成 29 年度佐渡市図書館(室)事業実績について (2)平成 30 年度佐渡市図書館(室)事業計画について ①事業計画について ②図書館費予算について (3)平成 29 年度佐渡市子ども読書活動推進計画評価について (4)佐渡市図書館ビジョンについて (5)その他
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	○ 佐渡市図書館協議会委員 会長 木村 和夫 委員 伊貝 秀一 近藤あゆみ 東 チヨ子 小松美知乃 深澤 隆司 稲田 修 ○ 事務局(教育委員会 社会教育課 中央図書館) 教育長 渡邊 尚人 課長 渡辺 竜五 館長 濱崎 賢一 係長 中濱 智子 主任 伊藤 優美 ○ オブザーバー 新潟県立図書館 企画協力課長 平田 ひろみ
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	—
備考	—

会議の概要 (発言の要旨)

発言者	議題・発言・結果等
事務局  伊貝委員	<p>1 開会</p> <p>○ 自己紹介 事務局 自己紹介 図書館協議会委員 自己紹介 県立図書館企画協力課長 自己紹介</p> <p>2 議題 (1) 平成 29 年度佐渡市図書館事業実績について</p> <p>説明</p> <p>今後の図書館像を考えるにおいても、利用者アンケートと並んで今の状態・実態がどうなのかをしっかりと分析していくことが大事です。</p> <p>図書館の利用状況について。来館者数は、平成 20 年のときと比べると、10 万 7 千人から 13 万 3 千人。これは微増しています。ただし平成 24 年度をピークにして、そこから僅かながら減傾向を辿っています。中央図書館も 24 年度をピークにして減少傾向にあります。一方、図書室については特に 29 年度、相川と新穂が急増しています。これはどういうことなのでしょう。</p> <p>貸出人数をみると、来館者数が微減傾向を辿っているのに貸出の人数が増えているのはなぜなのでしょう。</p> <p>貸出冊数は増加傾向にあります。来館者数、貸出人数、貸出冊数について図書室の方で増え方が大きいです。中味を分析すると相川、新穂、畑野が急増しています。</p> <p>来館者、貸出人数、貸出冊数について、来館者数が若干減りながら、逆に貸出の人数が増えているという傾向が見えるので、そのあたりについてお聞きしたいです。</p>
伊藤主任	<p>○相川、新穂、畑野で来館者数、貸出冊数が増えた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土日を閉館していること。</li> <li>・専任の職員が常任していること。→いつでも相談しやすい環境になっている。</li> <li>・新穂図書室ではボランティアの人たちと協同→おはなし会の開催。</li> <li>・畑野図書室ではビブリオバトルのイベントを開催して、集客をアップする努力をしている。</li> </ul> <p>○来館者数が微減、貸出人数はほぼ横倍で、貸出冊数が伸びた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年か 27 年に、学校図書館事務の方が配属されているが、</li> </ul>

	<p>その方が学校で必要な本をよく借りに来る。</p> <p>普通の方は2週間で10冊までしか借りられないが、学校で借りるときは、学校で図書活動に活かしていただきたいので、1学校につき100冊まで1ヶ月借りることが出来る。貸出人数は団体を含んでいるので1団体。ある小学校が100冊借りると、貸出人数は増えないが冊数は増える。</p> <p>・個人利用者の資料を見ると、個人の貸出は若干だが減っている。個人・団体の合計を見ると増えている。来館者数が減りつつ、貸出人数は横倍、貸出冊数は増えるという状況が起きているのではないか。学校図書館事務の方が入ってきてから学校への貸出が伸びている。</p>
伊貝委員	<p>そうすると来館者数、貸出人数、個人の貸出の人数、貸出冊数というのは、ある程度関連があるということですか。</p>
伊藤主任	<p>はい。あると思います。</p>
伊貝委員	<p>学校貸出のようなものが近年行われるようになったということですね。</p>
伊藤主任	<p>27年の7月か8月だったと記憶しています。学校図書館事務の方が5校兼務だとか、そういうような形で入ってきて、翌年は一人が2～3校を見るというような形で増員されてきて、今3年目です。</p>
伊貝委員	<p>学校図書との関連が分かりません。中央図書館あるいは、他のところもそうなのかもしれないですが、学校に対してそうやって貸出しているのですか。</p>
伊藤主任	<p>公共図書館では学校に対して貸出をしています。</p>
伊貝委員	<p>まとめて1ヶ月100冊という形で貸出しているのですね。</p>
伊藤主任	<p>そういうような貸出をしているときもあるし、例えば国語の授業でこういうのをやるから、絵本を集めて欲しいと言われてたり、教科書で色んな本を紹介しているページに掲載されている本を、子どもの読書旬間のときにまとめて貸し出しをしたりしているときもあります。郷土の学習で民話の本を貸してくださいという要望もあります。貸出のパターンは様々です。そのような形で貸出をしています。</p>
伊貝委員	<p>ありがとうございました。</p>

	<p>登録の状況について。地区ごとの住民基本台帳と登録者数の割合が資料にある。率の高い金井・佐和田・小木と、この辺りの地区については人口比で見ても図書館に対する利用等が高い地区です。逆に最も率が低いところは、相川・畑野・赤泊というふうに数字の上ではなっています。このようなものが図書館(室)の整備の充実と関連し、現状を反映しているのかなと思いました。</p>
伊貝委員	<p>地区人口に対する割合の部分、金井地区の人だけが借りているわけではないでしょうが、金井にある中央図書館の利用の人数と金井地区の人口と比較してみると3倍くらいになっています。数字の最も低いところで畑野をみると、人口4283人に対して824人の図書の利用。人口の人数まで借りられていません。同じ様にして新穂も相川も低いです。この数字をどういう意味で出したのか。その地区にある図書館(室)の整備の状況と関連があるようでならないです。</p>
伊貝委員	<p>29年の登録率28.0%、前年比で2.1%増えている。約3割近い人が登録している数字というのは、多いのか少ないのか分かりません。世代別の登録率だが、10代は、10歳から22歳までで、区分が4つに分かれており、ここのは平均10歳～22歳までで82%。同じ様にして20代、30代、40代。ここでいうと23歳～49歳までの3つの区分のところ、平均すると35%。20代は43.6%ということで登録率は高いという事が分かりました。50代より上については20～21%、70歳以上11%ということで平均すると16%。世代によって登録率が変わっています。今後どの世代でも図書館(室)というものの利用を考えなければいけません。20代、30代、40代のところ、興味深く思ったのは性別の比で、女性が男性の倍以上あります。このあたりをどのように考えたらいいのでしょうか。子育て等で、お母さんと子どもが行くという利用もあるかもしれませんし、それが男女差に見られるなど感じます。</p>
木村会長	<p>ありがとうございました。 市内の登録率が26%から28%になったと。それが多いのか少ないのか県のほうで何か情報ありますか。</p>
平田課長	<p>県のデータは十数%なので、県としては低いです。その自治体によっていろいろであり、高い方でもないけれど、低い方でもないのかなと思います。とてもよく分析をされているなと思った。 全体的に入館者数が減っている、人口も減っているのも、手段も増えてきて、それが全体的な傾向だと思います。ただその中で相川、新穂など図書室が増えているというお話がありましたが、祝日を開</p>

	<p>館したり、専任の職員を置いたりして、利用者の方の動きが変わって、本を借りる来館するということに繋がっているなど、はっきり分かります。</p> <p>貸出冊数が増えているというのは、相談してこういうのを読みたい、こういうことを知りたいというとき答えが返ってくる専任の職員がいるということが反映しているなどと思いました。</p> <p>学校図書館事務が配置されたということですが、国の政策で学校司書が法律で明確に位置付けされ、学校図書は大事だということの恩恵をきちんと子どもたちに還元しているということが分かりました。</p> <p>県立図書館の場合、入館者数が一番多かったのは、改革をやった年です。今は減っています。ただ貸出冊数は増えています。昨年度は過去最高を記録しました。利用していただくことを増やすということは出来るということで、かなりがむしゃらにいろんなことをやりました。佐渡市は登録率も高いので、その方たちに訴えかければ、女性も多いし、生活の役に立ちます。読み物もそうです。生活の役に立つということで、そこをターゲットにして、など、この結果からいろんなことが読み取れるなどと思いました。</p>
永井委員	<p>関連してもよろしいですか。登録について、佐渡市としては登録のPRをどういう方法でやっているのですか。以前地域の総合的な学習で1、2年生が公共施設の探検に行った時に、図書室の方から登録の申込書をいただいて、手続きをしました。そういうお知らせや登録の仕方が分からないです。学校の方にも周知しているのですか。PRしているのですか。</p>
伊藤主任	<p>1年に1回は市報さどに、登録の呼びかけはさせていただいています。ブックスタートという事業があり、乳児検診のときにお邪魔して本をプレゼントするという機会がありますが、その時に図書館(室)の利用申込書とご案内というのをお渡ししています。ご覧下さいという形で周知というのは行っています。小学校2年の公共施設の探検、見に来てくださるときに担当の先生とお話をさせて頂いて、貸出体験をするかなどというところも調整をしますが、全ての学校が探検したいところが何箇所もあります。図書館(室)でたくさん時間をとれば貸出の体験までもっていけますが、他の所もいかなければならず時間が無い、となると、館内のご案内だけで終わることがあります。時間がとれますよという学校については、貸出の体験というのもできますのでいかがでしょうか、とお声かけをさせていただいて、先ほど委員がお話されたような形で一人1枚ずつカードを作ってもらう、という取組も行っています。それ以外、何</p>

	<p>かやっているかと聞かれると、非常に弱い部分があり、こんなふうにしたらいいのではないか、というご意見がございましたら、お聞かせいただければと思います。</p>
事務局	<p>(2) 平成 30 年度佐渡市図書館(室)事業計画について</p> <p>① 事業計画について</p> <p>② 図書館費予算について</p>
木村会長	<p>予算約 175 万円の減ということですが、図書購入費自体はどうなのですか。</p>
中濱係長	<p>全く変化なく同額です。</p>
木村会長	<p>減額の原因は新穂の施設との関わりもありますか。</p>
濱崎館長	<p>○減額の原因について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査を行うということで予算を組んだが、今回は利用者アンケートで郵送等が無かったので、その予算が削られた。</li> <li>・小木図書館の周りに大きな木があったが、伐採の手数料が 100 万円くらいあったが、今回は無い。</li> </ul> <p>大きくはこの 2 つです。</p>
木村会長	<p>県主催のあいぼーとや新穂行政サービスセンターでの講演の案内は学校等へいきますか。</p>
中濱係長	<p>はい。学校の方へ案内させていただきます。</p>
木村会長	<p>是非、PRをお願いします。</p>
事務局	<p>(3) 平成 29 年度佐渡市子ども読書活動推進計画評価について</p> <p>説明</p>
深澤委員	<p>読み聞かせの実施率 100%なので、例えば週 1 回、月 1 回以上、年何回以上などと数を入れる。そうすると 100%に行かないかもしれないし、目標も見えてくるのではないのでしょうか。</p>
木村会長	<p>比較するために残すけれども、細分化された目標も付けるという</p>

稲田委員	<p>考え方になるのですか。</p> <p>目標の再設定はありだと思います。何のためにするかということが大事です。種類によって継続することが大事なのか、右肩上がりをしていかなければいけない項目なのかを区別します。全てを右肩上がりにするということではないような気がします。成長させるのか継続させるのか検討が必要です。</p>
木村会長	<p>この件に関しては、事務局の方でも2回目に今後どうなるか、ある程度どうなるのか、意見を活かしながら考えていただきたいです。委員の皆様も、次回この議題が出るので30年度末の評価に活きるようなものにしたいと思うのでお考えいただきたいです。</p>
	<p>(4) 佐渡市図書館ビジョンについて</p>
事務局	<p>説明</p>
東委員	<p>今までの佐渡市の図書館(室)を運営するにあたって基本計画のようなものは、この協議会で検討したことがあるのでしょうか。</p>
濱崎館長	<p>前回示しましたが、整備方針を作成するときは検討しました。子ども読書計画についても皆様から意見をいただきました。基本計画は検討していません。今まで無かったので、これは作成しなければいけないということで話し合った気がします。</p>
木村会長	<p>ビジョン、整備計画、運営方針など明確に違いはありますか。</p>
濱崎館長	<p>ビジョンと使わず、同じようなことを作成しているところはあるのではないかと思います。その自治体で図書館がこうあって欲しい、こういうものを目指し、市民にとってこういう施設であって欲しいと描くのがビジョンなのかなと思います。ただその中に建物の計画を含むものもあります。それぞれの自治体の捉え方なのかなと思います。整備計画前に市民の皆様がどういったものが欲しい、こうあって欲しいというところを確認しないと、計画を作るのは難しいと思います。計画の基になる理念というもの。それを目指して計画を立てる。</p>
伊貝委員	<p>議論の進め方として、何のために作るのかという目的、期間、背景は何なのか、ということを執行部側が考えて欲しいです。この協</p>

<p>木村会長</p>	<p>議会においては佐渡市の図書館の今後の在り方について、どのような姿を描くのか。すでに実施した利用者アンケートや現状を分析したうえで、各委員さんからいろんな意見を出してもらって、それを執行部でまとめていただく。このようなやり方で進めていったらどうかと思います。</p> <p>平成 16 年に合併で、佐渡市になったからといっても統一した運営方針は作らなかったと思います。そのまま今、平成 30 年まで 14 年間佐渡市としての図書館(室)の方向は無いなかで、研修会をやったりしていたのですが、運営の根本となる方針が必要なのではないのでしょうか。事務的に必要なのではないかと、思います。なので、私は太田市や新発田市のようなものがあるといい、そういう頭があるもので、また利用者アンケートの中味でいいのではないかと思ひ、考えたし実施もしました。市民の皆さんがいい佐渡市だな、心豊かになっていく子どもたちは大事にしていかなきゃいけないというのもいいと思います。</p>
<p>伊貝委員</p>	<p>私が思っているのは、新潟市を例に言うと、夢を描くという言葉の受け取り方ですが、新潟市の目指す図書館像、理念を大きく四角で囲んであります。心豊かな街づくりを目指す市民の身近な学びと情報の共有。これを達成するために、ネットワークを活かした課題解決型云々や、学者、市民、融合型云々があつて、今後の取組の方法というところで、運営方針的なものにつながっていく。こういうふうにしなければいけないということではないですが、大きな佐渡市の描く、掲げるものは何なのか。具体的な方法はどうか。これはイメージですので。この方法のところ「5つの協議会から受けて新潟市教育委員会が策定しました」と書いてありますが、この協議会の役割というのはこういうようなところにあるのかなと思います。</p> <p>ここでいろんな方の提言を受け、我々は意見を出しっぱなしでいいと思います。それをどのようにまとめるかというのは、やはり教育委員会のほうで、ある程度の形にまとめていただいて、こちらへこれでどうか。ということをするのもアリですし、あるいは関係のところをさらに各地域のもとへ、こういうものをまとめてみたけど意見ありませんか。というものもアリだと思います。</p>
<p>東委員</p>	<p>子ども読書推進計画のように、大きな骨組みがあるものを受け、こういうところを修正した方がいいのではないかと意見を出すのがよいのではないのでしょうか。</p>



木村会長	<p>一次を修正して、さらによい物を作るということですね。今回は全くゼロのものを作る、となると事務局は大変です。他の市町村を参考にしながら、皆さんにお配りしたりしているのが現状です。理念というのはしっかりしなければいけません。あとは、市民にもなぜこれを作ったのか分からないといけません。その結果どのようなものを目指しているのか方向が見えると、理念が必要です。</p>
濱崎館長	<p>理念については、佐渡市教育振興計画があり、これが大きな教育委員会の計画になります。ここに図書館のことがありますので、これを理念にしたいなと私は考えています。</p>
伊貝委員	<p>一項目大きな理念がありましたよね。振興計画の最も大きい核となる部分。</p>
木村会長	<p>「明日の佐渡を創る人、世界に羽ばたく人の育成」。</p>
伊貝委員	<p>例えば図書館がこういった役目を果たすという言い方、ことばを変えて。それは1つの理念だと思います。教育振興計画とどの程度出せる必要があるのか分かりませんが。</p>
濱崎館長	<p>このあたりを理念としたいなと思っています。皆様方が書き出した理念というなら、そちらでもいいです。</p>
伊貝委員	<p>佐渡らしいものがあるのかなと思います。</p>
木村会長	<p>新潟市、新発田市、さいたま市の例を見ました。やわらかく佐渡らしいものが出るという感じだと思います。</p>
渡辺課長	<p>これは全体のさいたま市のビジョンがあって、理念があって一部に図書館があるので、理念の一つ下の目標になっています。作り変えたパターンが1つあって、図書館だけであれば理念があって、その下に目標があって、その下に達成のためにこんなことをしましょうというぐらいまでが1つのパターンになるわけです。さいたま市は総合的ビジョンに理念があるから、図書館は具体的な目標になってくるとそういう感じですね。広く作ったパターンと我々が作ろうとした図書館ビジョンなので新発田のような方が形的には合うかもしれません。</p>
伊貝委員	<p>新発田は最初から施設ありきで進んでいるから、中に出てくると思うけど、複合施設云々で基本方針の段階から出てきたと思います。</p>

木村会長	新発田駅前複合施設整備基本計画を策定しましたというものは。
平田課長	<p>私、新発田市に在住しているのですが、市の図書館は新発田藩の資料、膨大な量を持っています。収まりきらない、整理も出来ない、何とかしなければいけないということで、計画がポンと出て補助金などもあって、とにかく推し進めなきゃということで、理念が最初にあったわけではないです。</p> <p>市民の皆さんのワークショップで、かなり議論したのですが、深めている時間がなくて、ここのアンケートでやったような、こうして欲しい、ああして欲しいとたくさん出たのを、市がまとめて、もともとあった考えと合わせて作りあげたので。順番は変わったんですけど、時間とお金が無い中でやったので仕方が無かったのかなと思います。</p>
伊貝委員	海士町はユニークですよ。図書館もユニークですよ。ないものはない。島まるごと図書館構想。
木村会長	2,500人くらいしかいない隠岐。それこそ佐渡と似たような条件です。日本海側ずっといけば海士町があるんですけど。
渡辺課長	町の作り方が違います。東京から人を呼んできて、職員入れて2,000人なんで、潮風留学という高校を作って、高校もみんな島外から入れてきて。人口も増えてます。ただ2,500~2,600人になっている程度です。2,500が3,000、4,000人になるわけじゃないですけど。半分は東京になるわけで、町長はほとんど東京に行ってます。霞ヶ関に行って、とにかくお金とってくる。だから職員はアイデアマンでアイデアを出すと。そういうような有名なところですよ。
伊貝委員	お金の無い中で、図書館の構想めがけてやっているところがなかなかです。「ないものはない。」って本当に無いものは無いのかなって思うけど、面白い。佐渡は、やはり佐渡らしい理念が欲しいなど。最初の第1歩は大事かなと。
伊貝委員	今後、各委員さんから提言をもらうというのはおそらく時間的にも、内容を吟味するにもちょっと難しいと思うので、そこのところは次回という方がいいのかなと思います。先ほど館長さんが言ったように個別に出してもらった方がいいのか分かりませんが、次回にはそれぞれアンケートなど考えられる材料はたくさんあるので、提案をしてもらうような。そして、次回はその提案したものについて、

<p>渡辺課長</p>	<p>意見交換するなり、そのようなやり方がいいのかなと思います。</p> <p>私が思っているのは、ビジョンとか抜きにして、皆様方にそれぞれ自分が考える佐渡にこんな図書館いいな、このあと10年こんな図書館にしたいなという思いを、何でもよいです、自分が考える図書館像を、こちらからペーパーを送りますので、書いていただきたいです。ビジョンと言ってしまうと言葉遣いが非常に難しくなるので、そうではなくて、こんなふうにして欲しいなというものをいただいて、それをこちらがまとめて、次の会に資料を出すというということにしたいです。こういう意見をいただいて、たたき台を作りましたということで議論をする。このような形での次のやり方というのはどうかと考えています。ビジョンというのは、作るのは簡単なんです。きちんと作るには難しくなってしまうので、ビジョンという形だとしてここで意見というのは、中々出てこないのかなと思います。好きなように書いてください。自分の理想で結構です。それをどう行政として事務局として、図書館のビジョンをまとめていけるのかと。できればまた平田課長にも来ていただいて、協力いただいて、作っていただければなと。そういうものがあつた方が議論しやすいのかと思います。</p>
<p>木村会長</p>	<p>今ほど課長から提案ありました。他にもありますか。こんな形で図書館がやっていく方法があるのではないかと。</p> <p>せっかくお越しいただいたので県内でも県外でも結構ですし、市と町でも結構です。それぞれのビジョンなり、何かありましたらお願いします。</p>
<p>平田課長</p>	<p>新潟市のビジョンは、新潟市の政令市の目玉の施設として作ったものです。中央図書館がありませんでしたので、長いこと市民から中央図書館が欲しいということで、政令市になる機会に、目玉の施設として市民の意見を闘わせて、要望をたくさん取り上げて作りました。ただ市民に言わせると願ったことの半分だと。市民の皆さんの願いは本当にたくさんある。全部受け入れることはできないですし、財政状況も厳しいということで、図書館の資料費も削られていますし、なかなか難しい面もあるのですが、市民のために、市民の声を反映させるために予算とか制限がある中で、ぎりぎりの中で作った図書館かなと思います。市側と市民側と意見を闘わせて、大きな騒動のような感じだったが間に合わせて開館にこぎつけたという感じでした。歴史図書館の委員として何回か参加させていただいたが、市側は、期限があつて、やらなければならないことのために向かっていかなければならないこと、市民の皆さんの要望と、本当に大変</p>

	<p>ですけど、市民の皆さんから、何でもいいから出していただいて、ただそれを全部実現できるわけではないのですよということ、申し訳ないが分かっていた。そのために回を重ねることが大事かなと思います。聖籠町は長い時間をかけて、建設計画の時間を何年もかけて作りあげていますので参考になるかなと思うのですが、新しい図書館を建設するために作る時のビジョンと、佐渡市の作ろうとしているものは、ちょっと違ってくると思うのです。今回アンケートの結果を見せていただいて、職員の対応とか市民の皆さんが感謝してくださっていて、市民の皆さんも素晴らしいなと思いましたが、これからの伸びしろの部分が見えてくるなと思ったので、願いをビジョンという言葉で表したら、それを実現するために少しずつやれることが、はっきりしてくると思います。人員の制限とはどこの自治体も厳しいのですが、何とか進める道を探っていければいいのではないかなと思いましたので、頑張ってくださいと思います。</p>
木村会長	<p>ありがとうございました。具体的にこれから進む方針としては、館長がお話されたように、そういう在り方で事務局が集まったものを整理しながら作りあげていってもら。それを元に中味について2回目ですべてやっていく、という感じになるのかなと思いました。</p>
伊貝委員	<p>材料がいっぱいあったほうがいいですね。</p>
渡辺課長	<p>皆さんから出していただかないと、ワンパターンのものになるので。是非いろんな面白い意見を。</p>
木村会長	<p>前回、各地区に伺って図書館協議会で話し合っていて、こういう方向でやっていますよということ、市民から意見をもらうというのが計画にありましたよね。今の段階で何かやりたいというのはあるのでしょうか。それが結果的には、次の会議を開くときとの兼ね合いで決まるようですか。</p>
濱崎館長	<p>そのたたき台的なものがないと、説明の意味がないかなと。</p>
伊貝委員	<p>地区ごとに説明するイメージですか。</p>
濱崎館長	<p>前回、羽茂に行ったときのような感じ。図書館を考える会として、一応アンケートもやりましたが、皆様方の意見も大切かなと。</p>
伊貝委員	<p>これは整備計画ではないから、整備計画だとそれぞれビジョン、</p>

渡辺課長	<p>最終的には影響あるのだけど、直接は整備計画ならそれぞれ地区ごとにとりますが、ビジョンは、例えば佐渡市地域振興計画というときに、各地区まで説明に入ることはないと思うのですが。</p> <p>ケースバイケースの部分があって、例えば4地区に分けて意見聞くということもありますし、出来たものに対してアンケートをとってパブコメするケースもあります。ビジョンを作る以上は、パブコメの他に、何らかの形で市民に意見を反映させるというのは必要だと思います。パブコメというのは出来たものに対してどうですか、と聞く意見なので、佐渡市でさまざまな問題が起こっているのは、出来たあとはどうしますか。という話において、意見が反映されていないということで、できる前にどうしましょうかという。伊貝委員がおっしゃるように、地区ごとにまわって膝付けてやるのかというところはいろいろと方法はあると思うので、考えなければいけないのですが、どういう案でいくのかというのは考えなければいけません。</p>
伊貝委員	<p>支所・サービスセンターにそんなことを諮るような組織はないですか。</p>
渡辺課長	<p>無いみたいです。図書館(室)のイベントで合わせてアンケートを渡して、意見くださいねという形をそのためだけにわざわざ実施します。いろいろな形があるので、そこは知恵を絞らないといけないと思います。</p>
木村会長	<p>そこへ持っていくためにも、ある程度形を作っていかなければいけません。進め方として、皆さんに夢や理想、こうあってほしいとかいろんなものを自由に書いていただきます。そして事務局へ渡し、まとめます。こういうことも入れるべきだとか、アンケートの活かし方、いろんな話を聞いてどういう形に活かすとか、そういうことも書いていただいても作りやすくなっていくでしょうし。そんな形の進め方でいいですか。</p>
濱崎館長	<p>様式を作ってお渡ししますので、ある程度分けて書けるようにします。</p>
伊藤主任	<p>紙でもお送りしますが、データ希望の方はメールでお送りします。</p>
木村会長	<p>アドバイスいただけたらお願いします。</p>

平田課長	<p>私もどのように関わらせていただければいいのかなと思いましたが、皆様の意見と佐渡市の意見といろいろ出したところで、進め方と方向と定まったのでいいのではないかなと思います。とにかく市民の皆さんの声を反映させることが大事だと思います。</p>
木村会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>(5) その他</p>
濱崎館長	<p>整備計画の関係で、佐渡市の庁舎整備、新穂行政サービスセンター、新穂公民館、新穂図書室、5月7日からオープンしております。環境もよく、子どもたちの居場所も素晴らしくよくなっているということでもあります。是非足を運んで頂きたいということと、両津支所、両津公民館、両津図書館については、今のところ計画は11月末で完成ということになっています。12月に引越しを行って1月オープンとなっておりますので、延びるかもしれませんが、今のところはそういう予定です。その時には、また皆様からご協力いただきたいと思います。</p>
木村会長	<p>ありがとうございます。委員の皆様から何かありますか。</p>
伊貝委員	<p>目にした方もおられると思いますが、日経にのっていた中央審議会の方で考えているということで、博物館・図書館を首長側に移管して活性化を図るという記事が出ていました。博物館も図書館も首長サイドで地域活性化の拠点として考えが支持されているとあるが、何か情報はありますか。</p>
平田課長	<p>審議に入っているということは聞いていますが、日本図書館協会から声明が出て、博物館サイドからも意見を求めたんですね。図書館協会としては、図書館が教育委員会にあるのは首長部局だけではなくに市長が変わるとかで、政策がガラリと変わったりして、影響を教育の現場で受けないように、教育委員会の下にあると。学校側とも子どもたちを育てていくということ。方針がころころと変わると困るので、首長部局から独立した教育委員会へ。図書館協会は独立した教育委員会の下がふさわしいということでもあります。いろいろな意見があって、首長部局にいた方がやりやすいという意見もありますが、図書館現場としては図書館協会と同じ考えでしたので、少し心配しております。</p>

木村会長

情報ありがとうございました。後はよろしいでしょうか。  
では、これで審議を終わります。

○ 閉会のあいさつ